

バラ十字会 AMORC について

(全世界にいる日本語をお読みになるみなさまへ)

シンボル・マーク

中央に赤色のバラを配置した金色の十字が、バラ十字会 AMORC のシンボル・マークです。十字は人の体を象徴的に表し、中央のバラは進歩しつつある人の魂を表しています。

会の特徴

伝統を重視する、会員制の哲学団体です。宗教とは一線を画し、政治に関わることなく世界規模で活動していて、性別、人種、宗教、社会的地位にかかわらず誰でも参加することができます。

モットー

「厳格な独立のもとでの最大限の寛容」をモットーにしています。

活動の目的

長い歳月にわたってバラ十字会員たちが受け継いできた哲学の「知」を、絶やさないように伝え続け、人類の意識レベルの向上に貢献することがバラ十字会の目的です。この知とは、宇宙と自然、そして人間自身の神秘に関する知のことです。

会員数

全世界に、およそ 25 万人の会員がいます。

会の起源についての伝承

バラ十字会の伝統は、言い伝えによると、古代エジプト第 18 王朝期、紀元前 1500 年ごろに存在したいくつかの神秘学派にまでさかのぼります。こうした神秘学派が存在したことを、歴史家やエジプト学者の大多数が現在では認めています。学派に入門した人たちが集い、世界のあらゆる物事についての神秘を研究していました。「神秘学」(mysticism) という言葉は、「さまざまな神秘を研究すること」を意味します。時代が下ると、エジプトで行なわれていたこの神秘の研究からグノーシス思想が生まれ、古代ギリシャとローマ帝国を経て、中世ヨーロッパに受け継がれました。そしてこれらの知が 17 世紀にバラ十字会員たちによって収集され、最終的にまとめ上げられたのでした。

歴史的資料から見た会の起源

資料が残っている範囲内に限って見ると、バラ十字会がその姿を現したのは1623年のことでした。冒頭にこう書かれたポスターを、フランスのパリ中の通りに張り巡らしたのです。「我々バラ十字高等学院の評議員は、公然とまた密かにこの街に滞在し…」その数年前にバラ十字会は、当時の思想家に向けた宣言書をすでに公表していました。それは『バラ十字友愛組織の声明』（1614年）、『バラ十字友愛組織の信条告白』（1615年）、『クリスチャン・ローゼンクロイツの化学の結婚』（1616年）の3冊です。バラ十字会は、次の項目「再興」に書かれているように、20世紀以降はバラ十字会AMORCという名で活動しています。そして、2001年3月に4冊目の宣言書『バラ十字友愛組織の姿勢』を、さらに2014年には5冊目の宣言書『バラ十字友愛組織からあなたへの訴え』を発行しました。18世紀のバラ十字会はフリーメーソンと密接な関係にありましたが、現在では、この2つは、完全に独立した組織として活動しています。バラ十字会AMORCは、20世紀初頭から、伝統マルティニスト会というルイ・クロード・ド・サン＝マルタン（1743-1803）の思想に基づく神秘哲学団体を後援しています。

再興

バラ十字思想に数年にわたり関心を抱き続けていたアメリカの神秘家ハーヴェイ・スペンサー・ルイス（1883-1939）は、1909年にフランスのトゥールーズを訪ね、実質的に休眠状態であった当時のフランスバラ十字会の役員の数名と接触しました。彼らはスペンサー・ルイスがバラ十字会に入門することを許可し、アメリカで会を再興するという任務を与えました。そうすることで、すでに第一次世界大戦の暗い影が忍び寄っていた当時の状況が好転した時に、ヨーロッパで活動を再開できるであろうと考えたのです。ハーヴェイ・スペンサー・ルイスはその使命を果たし、会の名前をバラ十字会AMORCとしました。AMORCは「Antiquus Mysticusque Ordo Rosae Crucis」というラテン語の頭文字にあたり、バラ十字会が長い歴史と伝統を持つことを強調しています。第二次世界大戦後に、バラ十字会AMORCの活動は徐々に世界中に広まっていきました。

現在の組織

現在、バラ十字会AMORCは世界のいたるところで活動しています。会の活動は言語圏ごとの本部に分かれていて、そこには、国境を超えて、同じ母国語の国々のすべてが含まれています。現在あるのは、ドイツ語、英語、スペイン語、フランス語、イタリア語、スカンジナビア語、日本語などの言語圏です。各言語圏に置かれている本部は、5年ごとに改選される本部主宰を長として運営されています。これらの本部すべてを統括しているのが世界総本部で、各言語圏の本部

主宰全員がそのメンバーになっています。世界総本部の代表職は「統領」と呼ばれていて、統領もまた5年ごとに改選されます。ちなみに、統領 (Imperator) という役職名は、18世紀にすでに使われていたもので、「自身を支配する者」(Imperare sibi) という意味のラテン語に由来しています。

講義の内容

1909年まで、バラ十字会の「知」は、秘密の保たれた場所で、口承による伝承だけによって受け継がれてきました。そのためバラ十字会は、かつては秘密結社と見なされていました。しかし、アメリカに拠点を移して以後、その知識は文書化され、論文教本という形で毎月会員の手元に届けられるか、またはインターネットを通じて読むことができるようになりました。論文教本は12の課程に分かれており、それぞれの課程では、哲学や神秘学の主要なテーマの2つか3つが扱われます。たとえば、神の本質、宇宙の起源、物質の構造、時間と空間の概念、人生に働く法則、進化の目標、人間の魂とその性質、意識のさまざまなレベル、超常現象、死の神秘、死後の世界と生まれ変わり、古代から使われている記号の意味などです。また、教本には、神秘学の基本テクニックを身につけるための実習が含まれていて、リラクゼーション、集中、視覚化、瞑想、心の錬金術などのテクニックが習得できるようになっています。

学習会と定期大会

ご自宅で学習する教本のほかに、希望する会員の方々は、各地にある下部組織で開かれるグループでの学習会に参加することもできます。こうした学習会の目的は、哲学や他の文化的な話題について、誰もが自由に意見を交換できるようにすることにあります。また、学習課程で昇級する際の、記念と準備のための式典を執り行うのも、こうした下部組織です。なお、このような学習会や式典に参加することは義務ではありません。しかし、得られるメリットが大きいので、すべての会員の方々にご参加をお勧めしています。バラ十字会 AMORC は、地域大会、全国大会、国際大会、全世界大会などを定期的に催しています。規模の大きさを問わずどの大会も、会員の方々に神秘学において進歩していただくことと、親睦を深めていただくことを目的としています。

著名人

バラ十字会の歴史は幾世紀にもわたるため、会員であった著名人や、会に深く関わっていた著名人が数多くいます。その一部をご紹介します。

パラケルスス (1493-1541)、フランシス・ベーコン (1561-1626)、ミヒャエル・マイヤー

(1568-1622)、ロバート・フラッド (1574-1637)、ヤコブ・ベーメ (1575-1624)、コメニウス (1592-1670)、ルネ・デカルト (1596-1650)、エレアス・アシュモール (1617-1692)、バルーフ・スピノザ (1632-1677)、アイザック・ニュートン (1642-1727)、ヴィルヘルム・ライプニッツ (1646-1716)、ベンジャミン・フランクリン (1706-1790)、サン・ジェルマン伯爵 (1696?-1784)、カグリオストロ (1743-1795)、マイケル・ファラデー (1791-1867)、ジョセファン・ペラダン (1858-1918)、クロード・ドビュッシー (1862-1918)、マリー・コレリー (1864-1924)、パピュス (1865-1916)、エリック・サティ (1866-1925)、フランソワ・ジョリヴェ・カステロ (1868-1937)、ニコライ・レーリッヒ (1874-1947)、エディット・ピアフ (1915-1963)、イヴ・クライン (1928-1962) などです。

現在でもバラ十字会 AMORC には、思想家や科学者、有名な芸術家が多数在籍しています。

バラ十字会 AMORC にご興味をお持ちになられた方は、日本語圏本部のウェブサイト www.amorc.jp をどうぞご訪問ください。